

### 交流の成熟

鳩吹台自治会のクラブをご存知ですか、嘗ては野球・テニス・卓球・女子ソフト・バレーボール・将棋などが結成されて地域の交流にも数々の実績を挙げて活躍し、鳩吹台自治会の結束力の強さを主張したが、近年は一つが解散、一つが消え、或いは自然消滅して現在は三部門に留まっている。クラブの役割は隣近所との交流が目的でもあったので、40年を過ぎた現在では一応の目的は成熟したと見て良いのかも知れない。

### ソフトボール部



自治会が結成された翌年に、長坂や若葉台に親睦のソフトボール大会をやらまいか、と呼びかけた処が菅刈など地域の幾つかのチームも参加して親睦は広がった。これによって鳩吹台ソフトボール部が正式に結成されて、初大会では、AチームBチームが参加して優勝と準優勝を勝ち取り大きな喜びを分かちあいました。その後40年の間に、可児大会・東濃大会・岐阜県大会などにも勝ち上がり多くの実績を挙げてきたが、他のクラブと同じく高齢化に伴い選手層は薄くなっている。それでも60才代の者と20才代の若者とは、吉川祥三部長・三輪正夫監督に引き継がれ、21名の部員と共に年間15程の試合を消化して「鳩吹台ここにあり」と前を向いている。連絡先 吉川部長

### 囲碁部



「あの人には一目置く」このような諺が人生にあります。これは囲碁からの由来です。自分より強い人に対して1目か2目置いて対戦する。囲碁にはハンディがあるから何方でもできる。難しい決まりごとはない。黒と白の石を交互に打って行く。地面を広く確保したものが勝ちです。大人も子供も男も女も誰でも指せる。鳩吹台の囲碁部は昭和40年に発足している。当時6級の棋力であった者が切磋琢磨して、今では5段の腕前になっているが、未だに6級のままの人もある。鳩吹台の部員は18名で毎週木曜日3回の練習日で、年に6回、自治会長盃とか文教体育委員長盃争奪戦が展開されている。部長 森達夫 連絡先 森部長

### 俳句会



昭和63年、根本喜久子さんの先導で発足した唯一の文芸クラブです。今は俳句界の大御所である鷹羽狩行を師系とする天衣の岬雪夫先生の傘下になり、中川康多氏を顧問として招聘し、ご指導を頂いている。自治会が文化関係にも尽力しているのは鳩吹台の他に例を見ない存在だろうと思う。会員も俳句のみに拘らず、小説やエッセイや現代詩も書いて、岐阜県や可児市や美濃加茂市等の文芸祭にも挑み、最高位の賞を幾つか頂いている。やはり俳句はあらゆる文芸の入り口なのかも知れない。また鳩吹台俳句集「鳩吹」を過去2回発刊し、岐阜県下の俳句仲間から評価を頂いている。そして今「鳩吹III」の発刊を計画している。連絡先 代表 中村ゆき衣

### 編集者のひとりごと

鳩吹台自治会会員には、色々なジャンルで活躍されている方も見える。可児市には文芸祭や美術展などがあり、毎年一般から作品を募集している。これらに鳩吹台から招待画家として活躍されている画家も見え、文芸祭の企画運営委員長を担っている方もおりまた声楽家として活躍されている方もおられる。

(広報委員 山崎啓・稲垣邦代)